

令和6年7月16日

## Press Release

国立大学法人筑波技術大学

# 全国の聴覚障害学生にエールを！

～第20回シンポジウムを通じて聴覚障害学生支援を広めたい～

第20回日本聴覚障害学生高等教育支援シンポジウムの開催を通じて、全国の大学等で学ぶ聴覚障害学生や、その支援に携わる大学教職員、支援者が集う機会を提供したい、という思いから、本学では、このたび聴覚障害学生にエールを送るためのクラウドファンディングを実施することとなりました。

## わたしたちについて

本学は聴覚・視覚障害者のための日本で唯一の国立大学として、長きにわたり聴覚障害学生、視覚障害学生の高等教育に尽力してきました。そして、その教育・支援ノウハウをもとに、2004年に立ち上げたのが日本聴覚障害学生高等教育支援ネットワーク(PEPNet-Japan)です。

PEPNet-Japanは全国の大学で学ぶ聴覚障害学生の支援体制向上を目的に立ち上げられたネットワークで、本学に事務局を置き、全国の会員大学・機関の協力をいただきながら運営しています。

聴覚障害学生支援のパイオニアとして、学生のニーズに寄り添いながら全国の大学の支援体制向上に向けて行動を起こすこと、これが我々の責務ととらえ活動してきました。この活動は、対外的にも高い評価を得ていて、2013年には内閣府「バリアフリー・ユニバーサルデザイン推進功労者表彰」にて内閣総理大臣賞を受賞。現在も全国から寄せられる相談・問い合わせは、年間700件に及んでいます。



(日本聴覚障害学生高等教育支援ネットワーク正会員大学・機関のみなさんと)

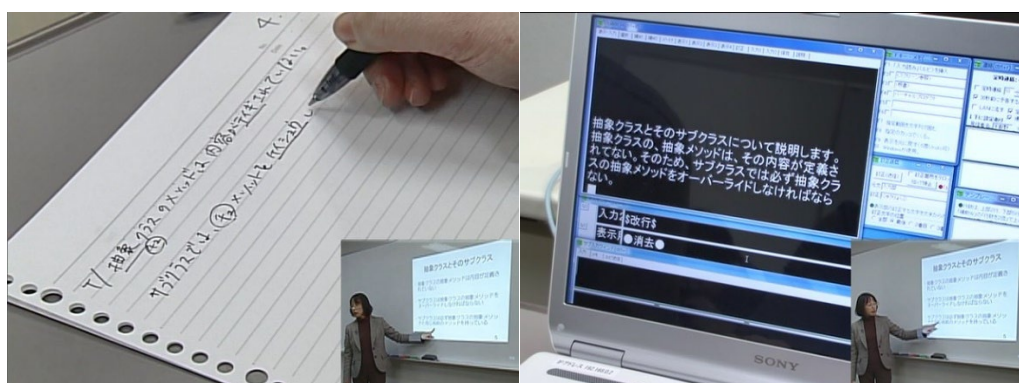
PEPNet-Japan では、なによりも、きこえない/きこえにくいことで、大学等での学びに障壁を感じている学生達のニーズに耳(心)を傾けることを常に忘れず、誰一人取り残されずに学ぶことができる修学環境を目指して活動しています。

そのためには、大学教職員をはじめとする、さまざまな立場の人々の協力が必要であると考え、立場を超えて情報交換ができる場を大切にしてきました。

## 聴覚障害学生とサポートの今

聴覚障害学生が大学で学んでいくためには、さまざまなサポートが必要になります。最近、全国の大学では、こうした支援の拠点として「障害学生支援室」などの組織を作り、専門の教職員を配置する例も増えてきました。

しかしながら、実際に授業で支援を行うには、たくさんのマンパワーが必要です。ここで活躍するのが、障害学生支援室の募集に応じて集まってきたたくさんのボランティアの学生達となっています。彼/彼女らは、同じ大学で学ぶ聴覚障害学生の学びをサポートするために、支援の技術を学び、ひとことでも多くの情報を伝えようと、研鑽を続けてくれています。



(授業での支援。左が手書きノートテイク、右がパソコンノートテイクの様子)

ただ、こうして支援者として活躍している学生たちも、やがて卒業とともに大学を去っていきます。そして、支援に携わる教職員の方々もまた、異動や退職にともない入れ替わりが生じます。そうした中、必要な支援体制を維持・発展させていくためには、継続的な支援者養成と知識やノウハウの継承が求められるのです。

わたしたち PEPNet-Japan は、こうした大学にさまざまな知識やノウハウを伝えるため、支援者養成講座の開講支援や教職員のみなさんを対象にした研修会の開催、個別の相談・コンサルティング提供を行っています。

そして、その中でも最も多くの方が集まるのが、2004 年から毎年開催している「日本聴覚障害学生高等教育支援シンポジウム」です。

## 20 周年記念シンポジウムについて

「日本聴覚障害学生高等教育支援シンポジウム」は、聴覚障害学生支援に携わる人々の間で、支援に関する情報を交換し、よりよい支援を提供していくことを目指して開催してきたイベントです。

このシンポジウムは、支援を利用している聴覚障害学生はもちろん、普段ボランティ

アとして支援を担っている支援学生の皆さん、大学教職員、そして地域の支援者、関係機関職員など、さまざまな人が集まるのが特徴です。

第1回シンポジウムは2005年度に筑波技術大学で開催し、約160名の参加がありました。その後も毎年開催を続け、コロナ前は500名以上が集まる大きな会でした。

その後コロナ禍でオンラインによる開催を余儀なくされておりましたが、昨年度実施した第19回シンポジウムは、定員を150名に制限する形で、対面での実施を復活させました。



(これまでのシンポジウムの様子)

参加した方々からは

「情報共有の場になる(大学生・大学院生)」

「他大学の聴覚障害学生支援の取り組みの状況について、豊富な情報を得られるとともに、人のつながりを持つことができる(大学教員)」

「教職員、学生ともにエンパワーされる機会である(大学教員)」

「障害学生支援という同じ志で同じ方向を向いて活動している仲間がいることを実感しました。これも PEPNet-Japan のネットワークのおかげだと思います(大学職員)」

などのご意見をいただき、やはり直接顔を合わせて交流することの大切さを実感しています。

今年の20周年記念シンポジウムでは、完全対面で実施し、これまで聴覚障害学生



聴覚障害者・視覚障害者のための大学  
支援の歴史を築いてこられた先輩方を会場にお招きして、現役の学生や教職員にエールを送っていただく予定です。この中では、大学卒業後、社会人として活躍している聴覚障害者の方々に、現役の聴覚障害学生の悩みに答えてもらったり、元支援学生の先輩から、支援を通して学んだことが今の仕事でどう生きているのかを語ってもらったりすることで、今、支援を担っているみなさんの大きな力になればと思っています。

なお、シンポジウムをはじめとする PEPNet-Japan のイベント・企画では、参加する方々の社会的障壁をなくすために、基本的に文字通訳と手話通訳を準備して実施しています。また、聴覚障害学生を含め、多くの関係者に広くご参加いただくため、参加費は無料で開催しています。そして第 20 回大会も、これまで同様の形で実施したいと考えています。

## なぜ支援が必要か

---

PEPNet-Japan では、これまで国等からの予算提供を受けて多くの大学に支援をしてきました。今回のクラウドファンディングの中心となっている日本聴覚障害学生高等教育支援シンポジウムも、こうした予算を活用しながら開催を続けてきましたが、昨今の予算縮小の波を受け、活動規模の縮小を余儀なくされているのが現状です。

ここ数年は、それでもコロナ禍の影響でシンポジウムもオンライン開催としてきたため、何とか予算の範囲内で開催することができてきました。けれども、聴覚障害学生支援の要は「人」です。人が想いを語り合い、深い知識を学ぶためには、やはり対面での出会いが必要です。

人と人が出会い、多くの学びを得られる場を作り上げるために、たくさんの方々からのご支援、エールをいただければと思っています。

## 目標金額および支援金の使用用途

---

目標金額 150 万円

(使用用途)

- 1 会場費
- 2.情報保障費(文字通訳、手話通訳)

## ご支援へのリターンコースについて

---

<個人向け>

- 1.純粋寄附コース(聴覚障害学生へのエールメッセージをお寄せいただけます)
- 2.PEPNet-Japan グッズ
- 3.アーカイブ動画の視聴権
- 4.寄附者限定企画への参加権

<企業向け>

- 1.シンポジウム参加者へのチラシ配付権利
- 2.シンポジウム当日資料への広告掲載権利
- 3.シンポジウム会場内での CM 配信権利
- 4.PR 動画の PEPNet-Japan ウェブサイト掲載権利
- 5.シンポジウム企画内での PR タイム付与
- 6.展示ブース出展権利
- 7.シンポジウム当日資料の送付

※一部のコースについては、所得税および住民税の寄附金控除が受けられます。筑波技術大学が発行する「寄附金受領証明書」を控除証明書として、お住まいの地域を管轄する税務署で確定申告を行っていただきます。証明書を希望される場合は、必ず住所・氏名をご入力ください。

## スケジュール

- 2024年 7月11日18時～ クラウドファンディング開始  
8月26日 クラウドファンディング終了  
12月7日、8日 第20回シンポジウム開催

取材のお申し込みは広報室までご連絡ください。

**【問合せ先】**

筑波技術大学 広報室

TEL: 029-858-9311 FAX:029-858-9312

E-Mail: kouhou@ad.tsukuba-tech.ac.jp